

マタイによる福音書 1章 18～24 節

イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。
母マリアはヨセフと婚約していたが、
二人が一緒になる前に、
聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。

夫ヨセフは正しい人であったので、
マリアのことを表ざたにするのを望まず、
ひそかに縁を切ろうと決心した。
このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。
「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。
マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。
マリアは男の子を産む。
その子をイエスと名付けなさい。
この子は自分の民を罪から救うからである。」

このすべてのことが起こったのは、
主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。
その名はインマヌエルと呼ばれる。」
この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。

ヨセフは眠りから覚めると、
主の天使が命じたとおりに、妻を迎え入れた。